∭≒超の難路、高校生と挑れ

ックポイント・中込検印所でと15歳の長野県佐久市のチェ りから疼き出した。石足を路 挫のことなどすっかり忘れて 引きずりながらも小諸へたど られて右足首を捻挫し、足を て歩く行事だ。前年は、60歳 だったわたしは伝統の「強行 た。心が折れ、ゴールまであ に激痛が走る。雨も落ちてき いたが、前の年と同じ60歳辺 り着いた。それから1年、捻 付近で道路のくぼみに足をと 市まで105㌔を一屋夜かけ 遠足」に参加し、途中で落伍 山梨県立甲府第一高校3年生 前に進むのを諦めた。 面に着こうとするたび、足首 した。甲府市から長野県小諸 2年前の1976年10月、

Bである。 母校へ願い出た。迎えてくれ ば退職するはずだった今年、 てみたい、という思いが社会 破したのに」。もう一度歩い 第92回強行遠足の同行取材を た校長の堀井昭さん(5)も0 によぎる。定年延長がなけれ に出てからも、ふとしたとき ースですよ」 「2年生まで2年続けて踏 「昔より過酷なコ

高

強行遠足」の道

道を、前を歩く生徒らのキャ ップランプを頼りに上る。闇 八ケ岳髙原ラインに通じる県 なく思い知った。観光道路・ 地点の大泉検印所を出て間も 6日午後9時すぎ、39・2十 それは強行速足当日の10月

> 当する高さを上っていた。心 らはぎばかりか、心臓も耐え た。今にも痙攣しそうなふく る。出発から8時間、110 拍数も130前後に跳ね上が ば30分間に48階建てビルに相 うち勾配が一段と急になる。 でも上がっていく。 に通る車の赤い尾灯がどこま るのか皆目わからない。たま られるか気が気でなかった。 0
> が近い標高差を上がってき スマートフォンの記録によれ が続くのか」。ぼやいている に包まれ、先がどうなってい 「まだ坂

行程は男子のコースの中ほど ートを通っていない。

女子の わたしの高校時代はこのル

> 男子の全行程は104まと1 年、危険運転の車に女子2人 点は50 がほど上がった。 + 短縮されたが、最も高い地 いった見直しを重ねた結果、 ため歩道のある道路を選ぶと がはねられて死傷し、安全の の区間の44元余り。2002 どうにか坂道を上り切った

辺りから雨が降り始めた。 きおり16公を超す強風が吹き 台風25号が日本海を北上して つれ、風が強まる。折あしく 夜空に北斗七星が瞬いてい 雨が上がり、雲が切れると、 に入って日付が変わるころ、 里を過ぎ、山梨県から長野県 も立ちこめ、視界が悪い。 いた。 気温は17度台だが、 と た。だが、野辺山が近づくに

> 29・7度だった。寒さがひと 前、午後2時の甲府の気温は 漏れた。 スタートした10時間 で下がる。そばを歩く生徒の 荒れ、体感温度は0度近くま しお骨身にこたえる。 一団から「寒い」という声が

73人がリタイアした。 さらに全体の2割弱にあたる 関に靴が並んでいた。もう歩 るまわれた。到着した生徒を が既に棄権していた。ここで 379人のうち、12%の46人 けなくなって靴を脱いだ後輩 教師や保護者がねぎらうテン 所では、名物のシジミ汁がふ たちの無念が伝わってくる。 トの後ろに体育館がある。玄 52・3*1地点の野辺山検印 難路に挑んだ1~3年生計

生懸命19時間歩き続けた

辺山まで行き着く自信はなか ら、わたしは東京都中央区の 距離を確かめた。33世先だ。 ら行程表を広げ、臼田までの で買ったおにぎりを食べなが をほぼ毎日歩いて帰った。だ 会社を出ると自宅まで11*5弱 の検印所で、わたしの高校時 った。検印所近くのコンビニ が、しょせんは平らな道だ。野 佐久市と合併した旧臼田町 暑さが和らいだ9月初めか

故・依田トミ子さんが迎えて 代は「日田のおばちゃん」こと 高の教師が依田さん夫妻の営 ランティアですよ」と話す。 晴さん(72)は「いまでいうボ ゴ千個、牛乳千本。次男の正 意するコメは60歳、紅玉リンリンゴも持たせてくれた。用 に牛乳を勧められ、真っ赤な とゴマの炊きたてのおむすび くれた。「えらかったね」。塩 1963年のこと。甲府一

現れた。長野県松本市へ向か 寿倭次さんが応えた。「お世所を設けたいという。亡夫・ う国道20号の交通量が増え、 む小海線臼田駅前の酒販店に むすびを握ってくれた。 助けを求めた農家の主婦が塩 帰る夜道、空腹に耐えかねて しの当てが外れて山梨県から 話しましょう」。戦前、職探 変えるので、この近辺に検印 強行遠足のコースをこちらに 「お世

ったのだ。

以来40年、依田さんは90歳にくまで、検印所を切り回した。このために買った容量3た。このために買った容量3た。このために買った容量3次男の妻百合子さん(22)ら家族は総出で、地域の女性たちも手伝って、おむすびを握る。保護者は紅玉を布で磨る。保護者は紅玉を布で磨る。保護者は紅玉を布で磨さんをもてなすのが好きですから。子どもも大好きだし」と口々に言う。

は変わらない。
田検印所は千曲川の対岸

何とか臼田に着けたのはサッカー部の2年生ら4、5人のお陰だ。6・6*1手前の佐久穂検印所が近づくにつれて久穂検印所が近づくにつれて久穂検印所が近づくにつれて外での活みがこたえ始めた。そ差を下ってきたツケだろう、か「短気は損気」と素っ頓狂が「短気は損気」と素っ頓狂のかず離れず歩くうち85・8で乗権した中込も過ぎた。

次の岩村田検印所まで1⁺の交差点で浜田亮輔さん(16)の交差点で浜田亮輔さん(16)の技が続いたあと、ほぼ同じり坂が続いたあと、ほぼ同じり坂が続いたあと、ほぼ同じり坂が続いたあと、ほぼ同じり坂が続いたあと、ほぼ同じの交差点で浜田亮輔さん(16)の交差点で浜田亮輔さん(16)の交差点で浜田亮輔さん(16)の交差点で浜田亮輔さん(16)のでは、100円のでは

まには底マメができていた。 1歩進むたびに画びょうを踏 れだような痛みが襲う。平ら がような痛みができていた。

歩き、残り8・84元の岩村田 た。 42年前の挫折を招いた古 さん(16)と早田陽紀さん(17)団は全員ゴールし、森田悠希 傷だ。スタートから95・2+1 石足首の激痛に耐えかねてい 2、3枚が剝がれたまま小諸 しは窮屈な靴のせいで足の爪 ために歩くか?わからない の三嶋悠人さん(17)は「何の 絶対無理でした」。もう一人 は口をそろえた。 で脱落した。ここで別れた集 歩いたのか、自分でもわから です」。1年生のとき、わた へ着いた。なぜそこまでして しばらく前から、わたしも 「1人じゃ

2年生になった75年、若者のカリスマだった当時36歳ののカリスマだった当時36歳の行取材した。「かわいかった、みんな一生懸命でね」。まもなく80歳を迎える黒田ごまもなく80歳を迎える黒田ごまもなく80歳を迎える黒田ごたことはない。「大事なのは全行程略破を周囲に語ったことはない。「大事なのは全行程略である場面に話ったことはない。「大事なのはあったるのと違う?」

のりだった。 おのころと同じように生徒 おのころと同じようにわたしも 引っぱられるようにわたしも は届かなかったけれど、一生 は届かなかったけれど、一生 でくれた、かけがえのない道

写真・藤原伸雄文・田中啓介

今回の道

田府第一高校の「強行遠足」は 前身の旧制甲府中学時代、1924 (大正13)年に始まった。当時の

校長が「歩 くにまさる 身体の訓練 はない」と 企画したと いう。今年 が92回目。 記者=写真



=が歩くのは42年ぶり4度目。

甲府一高を出発し、最初の韮 崎検印所まで11.5⁺1。 韮崎市は 2015年のノーベル医学生理学賞 を受賞した大村智博士の郷里 だ。韮崎を過ぎた辺りから清里 の手前、42.9 地点のまきば給 水所まで上り坂が続く。「まき ば」は標高1426年。出発点に比 べて1138 流高い。

山梨と長野の県境を越えて、 小海線が走るJR鉄道最高地点 (1375位)の近くを通過し、52.3 *, 地点の野辺山検印所に至る。 ようやく全行程の半分だ。

ここを抜ければ、今度は長い 下り坂が待ち構える。計18カ所 の検印所・給水所の中で最も高 い「まきば」からだと、終点の 小諸まで759 位下りなければな らない。国道141号や間道をた どって千曲川沿いを北上する。 東の空が白むのは、おおむね70 ~80 地点か。

104 かを踏破して、たどり着く 懐古園は、島崎藤村が「千曲川



旅情の歌」に「小諸なる古城の ほとり」とうたった小諸城址 だ。三之門をくぐればゴールテ ープが待っている=写真。制限 時間の24時間以内に今年、この テープに迎えられた男子は186 人。総勢379人の49%だった。

一方、女子の行程は男子と同 じコースのうち高根~小海間の 41.6 キュ。 425人が参加し、91% に当たる388人が制限時間の9 時間以内にゴールした。

JR甲府駅北 口からバスで10 分ほど。戦国武

将武田信玄をまつる武田神社 (8055・252・2609) =写真=は信 虎・信玄・勝頼3代の居館だった



躑躅ゲ崎館跡に立つ。堀、石垣、 古井戸といった遺構が残り、往 時をしのぶことができる。

山梨県は世界でも珍しい宝飾 産業の集積産地だ。貴金属加工 や宝石研磨、水晶美術彫刻、国 内外への流通・販売といった企

業や工房が集中する。

甲府駅南口から徒歩7分の山 梨ジュエリーミュージアム (8 055・223・1570)で開催中の「宝 石の街甲府」展は、明治期の 水晶工芸から現在の宝飾品まで 約80点を展示し、新たな価値の 創造をめざす取り組みも紹介す

る。来年2月11日 まで (火曜と12月 29日~1月3日休 館)。無料。

写真は、展示作

品のペンダント 「ゆきのはな」。

2010年のご当 でゴールドグラ ンプリに輝いた「甲府鳥もつ 煮」=写真

=発祥の店 が奥藤本店 だ。新鮮な 牛の鶏のレ



バー、ハツ、砂肝、キンカン(玉 道)を鍋に入れ、砂糖と醬油をベ ースに味付けをする。1950年ご ろ、初めて顧客に提供し、次第に 浸透して甲府のソウルフードに なった。甲府駅前店(8055・232) •0910)は駅南口から徒歩2分。 木曜定休(祝日は営業)。

甲府市の印傳屋 印伝のパスケース を3人に。住所・氏名・年齢・「1 日」を明記し、〒119・0378 晴海郵 便局留め 朝日新聞be「みち」係 へ。6日の消印まで有効です。





